

中央図書館の電子化について

中央図書館図書総務課

中央図書館では平成4年11月から本格的な図書館の電算化を開始し、丸7年の歳月が経過しました。開始当初は大規模大学の殆どが汎用機を利用しており、インターネットが今日のように爆発的な普及を遂げるとは予想だにされておらず、今日の実況は隔世の感があります。

本格的なIT時代の到来と騒がれている昨今ですが、時代の進展に合わせて図書館サービスのあり方も絶えず変化し続けていかなければなりません。しかしながら、駆け足で今日の実況を迎えた反省として、コンピュータやネットワークを利用した図書館サービスが利用者に十分理解されていない面もあるのではないかとの認識から、現在の状況を館報の誌面を借りて報告させていただきます。

1. 目録情報検索システム

①図書目録

KISS (Kinki University Information Service System) の略称で親しまれていますが、中央図書館が所蔵する図書約90万冊のうち約67万冊の目録情報が検索できます(平成12年11月末現在)。未入力図書については平成15年度末を目標にして、外部委託方式により逐次データ化を進めています。

このシステムはIBM社の汎用機用図書館システム「DOBIS/E」を利用していますが、インターネットや学内LANから標準的なブラウザを使って検索できるように、ゲートウェイ方式による新検索システムを別途開発しました。ただし、プロキシー経由では新検索システムの利用ができませんのでご注意ください。

②雑誌目録

KISS²の愛称で親しまれており、本部キャンパス以外に医学部・農学部・生物理工学部で所蔵する学術雑誌を一括して検索することが可能です。平成12年11月末現在でタイトル数約1万1千件、所蔵数約1万7千件のデータが搭載されています。ただし、短期保存の新聞やブラウジング雑誌のデータは搭載されていませんのでご注意ください。

上記の図書・雑誌目録検索システムは、いずれも図書館のホームページからリンクが張られています。

2. 索引・抄録データベース

索引や抄録のデータベースは近年ますます重要視されており、特に自然科学系では研究活動に不可欠なものも存在します。

中央図書館では平成9年に索引・抄録データベースを運用するためのサーバ機を導入して次のシステムを運用しています。

①ERLサーバ

ERL(Electric Reference Library)は米国のSilver Platter社が開発したシステムで、複数の索引・抄録データベースを同一の検索システムで運用できるのが最大の特徴です。搭載できるデータベースの種類も多く、国内でも多くの導入実績があります。

当該システムでは、現在以下のデータベースを運用しています。

データベース名	分野	収録期間	ユーザ数	更新
Current Contents (All Science 5ed)	自然科学全分野	1998-	無制限	毎週
Eoonlit	経済学	1969-	4	毎月
ERIC	教育学	1966-	4	3ヶ月
MEDLINE	臨床医学・生命科学	最近14年分	4	毎月
PsycINFO	心理学	1887-	4	3ヶ月

②CA専用NTサーバ

化学分野の必須データベースである Chemical Abstracts専用サーバとして運用しており、10期索引期(1977-)以降の全件が検索できます。基本的にはWindows機での利用となりますが、薬学部および理工学部応用化学科系統のLANからはMacでの利用も可能です。

③汎用サーバシステム

①・②以外でネットワーク契約しているデータベースに「判例体系」・「法律判例文献情報」があり、図書館・法学部資料室および法学部教員研究室等から検索できますが、通常のNTサーバを利用しているため、複数データベースを運用するうえで多くの問題がありました。そこで、CD-ROMベースの複数データベースを包括的に管理・運用するためのサーバシステムを新たに導入し、現在運用の諸準備を進めています。「科学技術文献速報全11編」(2001年4月予定)・「雑誌記事索引」などの運用も予定しており、利用者のニーズに合わせながら漸次データベースの種類を増やす方針です。

なお、ここで紹介したネットワーク利用の索引・抄録データベースは原則として本部キャンパス内からの教職員・院生・学生の利用に限られていますが、①に搭載されたCurrent Contentsは本部・医学部・農学部・生物理工学部・工学部・九州工学部の共同利用契約を交わしていますので、本部以外の教職員・院生・学生の利用希望については各々の図書館にご相談ください。

①および②の利用を希望される本部キャンパスの教職員は次のアドレスに利用申請書がありますのでご利用ください。

(<http://163.51.2.194>)

また、現在運用準備を進めている③については本部キャンパス内のみの利用が原則ですが、「科学技術文献速報 全11編」はイントラネットでの利用が許諾される見通しですので、医学部・農学部・生物理工学部からの利用が可能となる予定です。詳細については追ってお知らせします。

3. 電子ジャーナル

近年外国雑誌の出版社は学術雑誌の電子ジャーナル化を積極的に進めてきましたが、実用段階に達した出版社はその普及を図る状況になっています。本学でもその導入を始め、現在以下の電子ジャーナルシステムが利用可能となっています。

①SD-21

外国雑誌出版社の最大手であるElsevier社が提供する電子ジャーナルシステムで、傘下のPergamon, North-Holland, Excerpta Medicaが出版している学術雑誌も利用できます。傘下に収める出版社は増えており、ごく最近ではAcademic Pressが加わったとのことで、今後の展開が注目されます。

当該システムは近畿大学を1つのグループとして認定するため、本部・医学部・農学部・生物理工学部・工学部・九州工学部のいずれかで購読されている雑誌は上記6キャンパスの全てから共通して利用できるのが大きな特徴です。

通常は購読している冊子体に対応した電子ジャーナルしか利用できませんが、2000年は特別措置として当該システムに搭載された全ての電子ジャーナル約1,100タイトルが利用可能です。この特典は2001年にも適用されますが、それ以降は本来の契約になり、購読している冊子体に対応した電子ジャーナルの利用となります。また、当初は最近3年間分の論文しかサーバに搭載しないとのことでしたが、現在同社によって過去に遡った論文の電子化が進行しており、利用できるバックナンバーおよび論文数が大幅に増加する見通しです。

②InterScience

Wiley社が提供する電子ジャーナルシステムで、現在本部キャンパスで購読している冊子体36タイトルの電子ジャーナルが利用できます。現在の契約では本部キャンパス内からの利用に制限されており、各々の電子ジャーナルに同時にアクセスできるのは1人のみです。

③ECO(Electronic Collections Online)

OCLC社が提供する電子ジャーナルのゲートウェイシステムで、本部キャンパスで冊子体を購読している複数出版社の雑誌で電子ジャーナルの利用ができるものを統括したシステムです。現在128タイトルの電子ジャーナルが利用でき、各々のタイトルへの同時アクセス可能な人数は15人になっています。

これらの電子ジャーナルシステムは中央図書

館のホームページからリンクが張られており、利用方法等の案内もご覧になれますので、ご活用ください。

中央図書館を中心とした図書館の電子化について概観してきましたが、図書館内から利用できる「日経テレコン21」やスタンドアロンで利用できるCD-ROM版のデータベースについては今回省略いたしました。これらの利用については中央図書館のホームページ (<http://www.clib.kindai.ac.jp>) や図書館発行の印刷物をご参照ください。

今後ますます加速するIT化時代に対応すべく、中央図書館として積極的に取り組んでいくことにしており、そのつど図書館ホームページ等を通じてご案内する予定です。

(文責 牛島 裕)

中央図書館システム構成図 (平成12年11月30日現在)

